

## 区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和3年11月9日(火) 18時30分から20時
会 場	野方区民活動センター
テ ー マ	地域包括ケア体制の推進について
出席者 区民	計 18人 (男性 9人、女性 9人)
区 側	区長、地域包括ケア推進担当部長、地域包括ケア推進課長、地域活動推進課長、区民活動推進担当課長、北部すこやか福祉センター所長・アウトリーチ推進担当課長
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

区長あいさつ

コロナ禍で町会・民生児童委員の皆さんが普段やってくださっている見守り・支えあいが一時的に出来なくなり、困っている人・SOSが出せない人がいたと認識している。コロナ禍が続いている中でも団体、個人の皆さんができることからやろうということで、中野区の地域包括ケアのために力をいただいていることに感謝している。

2025年には団塊の世代の皆様がすべて75歳に到達し、中野区では2040年に区民の3人にひとりが高齢者となる。団塊の世代の皆さんが2040年には90歳になり、人生100年時代でひとり暮らしの方も相当増えていると思われるため、そこに向けてどうやって地域が支えていくか今から準備しないといけないと考えている。グループディスカッションで皆さんに議論していただき、出てきた意見を政策に生かしていきたいと思っている。

区民の意見・質問

区長の回答等

1	<p>子どもにもしっかりと焦点をあてた支援体制をつくってほしい。コロナ禍で交流の機会が少なくなって、つながりを失っている人も増えている。子育てひろばなど子育て世代の母親が集って問題を共有し気持ちや緩和できる場所が必要。さらに高齢者が子どもの遊び相手になるなど、高齢者や子育て親子が交流できるような場所があるといい。</p>	<p>交流の機会がなくなり、地域で足りないものが見えてきた。提案のあった子育てひろばの役割は、孤独や孤立を防ぐためにセーフティネットとして必要だと思っている。年代等で居場所が分かれているが、仕組みを変えていかないといけないと考えている。これからは色々な人が一緒に利用できる施設、利用者の目線での多世代交流を実現していきたい。</p>
2	<p>民生児童委員をやっている方からは、保健師が乳幼児親子の訪問をする際に一緒に同行できれば、そこからつながりができて良いという意見があった。現状は個人情報の問題があってできないが、情報をうまく使えるシステムをつくるのが大切だと思う。</p>	<p>きっかけがあればつながりやすくなるし、見守り・支えあいがしやすくなるというメリットがある。どういうやり方で情報共有すべきか検討する。</p>
3	<p>支援サービスがあっても自分でたどり着く力がないと利用できない。打破するために地域包括ケアが必要だと思う。高齢者は書類が届いても読むことが困難になってくるが、一人ひとりが意識しご近所同士で声を掛け合い手助けできるといい。</p> <p>区は書類を作る際に、文章を補足するような図や分かりやすいフローチャートを使うなど工夫してほしい。</p> <p>高齢者だけでなく、障害のある方や小さい子どものケアが必要な家庭など、プライバシーとのバランスを考慮しながら、地域の方を気に掛けることが大切だと思う。</p>	<p>情報が伝わらないのは行政がやりがちなミスだと認識している。ワクチン接種に関しても申し込みができない方が多くいたため、急遽区民活動センターで申し込み支援を行った。区の記事については相手に伝わるように慎重に考えないといけない。ユニバーサルデザインを考慮し、高齢者にも外国の方にも分かりやすいものにしていく。</p>

区民の意見・質問	区長の回答等	
4	<p>「地域包括ケア」が分かりにくい。どんな問題があって、どんな取組をしていくのか情報提供してほしい。</p> <p>すこやか福祉センターに色々な機能を詰め込んだせいで、逆にうまく機能していない。相談しても適切に対応してもらえないと感じる。中野区は生活保護のケースワーカーも少ない。地域包括ケアの実現のためにはまずは区の体制を良くしてほしい。</p>	<p>現在、すこやか福祉センターのあり方を見直している。</p> <p>ケースワーカーの人員については、地域包括ケアの実現に向けて、必要な体制を整備していきたい。</p>
5	<p>在宅療養が続けられるような支援が必要。在宅が続けられなくなっても、できるだけ近くの施設に入居できるのが望ましい。一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が、配食サービスや民間の買い物支援サービスを楽しみ受けられたり、成年後見制度についても早いうちに準備できるといい。また、障害者・高齢者・子どもが一緒に過ごせる場所があったらいい。</p>	<p>在宅で過ごせるようにするためには、生活支援など課題がたくさんあり、多くの人が関わる必要がある。施設は足りない、病院はお金がかかるため利用しづらい。2025年に向けて少しずつ修正しながら中野区らしい地域包括ケアを目指していく。</p>
6	<p>地域の団体やグループはみんな一生懸命やっているが、個人情報の縛りがあり、横のつながりが上手くいっていない。</p> <p>子どものころから大人を信用しないように教えられている。本当は大人が子どもたちが安心できる社会をつくらないといけない。信頼関係があれば、もっと地域が良くなると思う。</p>	<p>個人情報の共有は課題だと認識している。個人情報を守るために、本人を守るための見守り・支えあいができないのは本末転倒。</p> <p>地域の皆さんの“目”があることが一番の安全だと思うので、まちにいる民生委員の皆さんや町会・商店街の皆さんの意識がつながっていくことが大事だと思っている。</p> <p>中野区はボランティア団体が一生懸命やっていただいて、都内でも屈指の地域だと思っている。もっと良くするためには横の連携と、行政がそこで何をすべきかということが問われているので、頑張っていきたい。</p>
7	<p>相談したいときに、普段からつながっていてちょっと聞いてみようというお気軽感がある場所がない。</p> <p>昔はオールマイティな職員がいたが、今は数年で交代してしまうので、そのたびにイチから説明しないといけない。</p>	<p>地域で働いている職員については、異動のスペンを長くするべきだと考えている。次の職員にもちゃんと引き継げるような体制が必要だと認識しているので、具体的に制度化していきたいと思っている。</p>